

## B（豊かな人間性の育成）

### よりよい生活を築こうとする力をはぐくむ指導の在り方

佐賀市立春日北小学校 教諭 國平 剛司  
多久市立中部小学校 教諭 山口 幸志

佐賀市立東与賀小学校 教諭 今村 昇治

#### 1 研究の趣旨

テレビゲームや携帯電話の普及、地域における人間関係の希薄化、家族間での対話の減少などにより、友達や地域の人、家族などの他者とうまくかかわることができない児童が増えている。そのためか、教育現場では、友達を思いやれなかったり、ルールを守れなかったりする児童が増えてきている。これらの問題を解決するために、児童に豊かな人間性や基本的な生活習慣、社会におけるモラル・マナーなどを身に付けさせる教育の充実や、社会性・規範意識などをはぐくむ他者とのかかわり、あるいは「生きる力」をはぐくむ様々な体験活動の充実などが求められている。

佐賀県教育の基本方針では、「いきいきと学ぶ学校教育の推進」を基本目標としており、その現状と課題において「自ら考え、行動できる自立した個人として、変化の激しい社会を心豊かにたくましく生き抜いていく基盤となる力を育成することが不可欠である」<sup>1)</sup>と述べている。「自ら考え、行動できる自立した個人」となるためには、自分自身を振り返って問題点に気づき、それに対して適切に判断し行動しようとする力が必要だと考える。また、「心豊かに」生きていくためには、他者を思いやる心や社会性、よりよい生活習慣などを身に付けることが大切である。これらを実現するためには、他者とかかわる場面や自分を振り返る場面を通して、よりよい生活を築いていこうとする力をはぐくむことが必要であると考えた。

そこで、本グループでは、「よりよい生活を築こうとする力」を「心豊かな生活を目指して適切に判断し行動しようとする力」ととらえ、「他者とのかかわり」と「振り返り」を共通の手立てとして研究を進めていくことにした。

#### 2 研究教科・領域等

小学校道徳、小学校特別活動、小学校総合的な学習の時間（食育）において研究課題の解決に向けて研究を行った。

#### 3 研究の成果

##### (1) 手立てについて

前述のように、本グループでは「心豊かな生活を目指して適切に判断し行動しようとする力」をはぐくむために、「他者とのかかわり」と「振り返り」の2つの手立てを取り入れた（図1）。「他者とのかかわり」では、児童が他者と自分の考えの共通点や相違点に気付いたり、他者の多様な考えを自分の問題点の改善に生かしたりすることができる考えた。「振り返り」では、児童が自分の考えのよさや問題点などを見つめ直すことで、より

よい活動内容や活動方法を考えることができるとともに、振り返りによって考えたことや学んだことを実生活に生かそうとする意欲を高めることができると考えた。この2つの手立てを取り入れた活動を、それぞれの領域において展開し（次頁表1）、児童の変容を検証した。

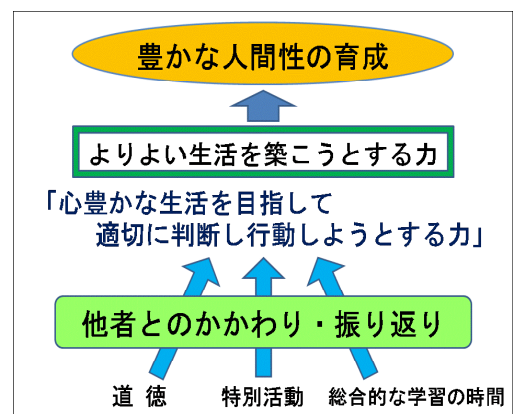


図1 研究の全体構想図

表1 道徳，特別活動，総合的な学習の時間における手立ての工夫

領域 手立て	道徳	特別活動	総合的な学習の時間（食育）
他者とかかわり	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 資料を読んだ後，児童が選んだ道徳的価値判断を基にペアでの意見交流の場を設定し，道徳的価値に対する考えを深めさせることができるようにする。</li> <li>○ 児童の任意，若しくは教師が設定したペアでの話し合いで，様々な他者の考えに触れさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 係活動において，活動を相互に評価する場を設定し，友達の考えや思いに気付かせるようにする。</li> <li>○ ワークショップ型の振り返りの場を設定し，協同で活動内容を評価させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 地域の食に携わる人や栄養教諭とかかわる必然性のある活動を設定し，食への意識を高められるようにする。</li> <li>○ 食に携わる人の思いや願いに直接触れさせることで，食への感謝の気持ちをもたせる。</li> </ul>
振り返り	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 授業内容と生活経験を照らし合わせる中で，キーワードを用いて記述させ，価値の自覚を深めさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 友達からの評価を生かしたワークショップ型での振り返りを通して，活動のよかった点や問題点について考えさせる。それを基に，係や個人としてどう活動していくべきかを考えさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 全体・グループでの話し合い活動やポートフォリオを活用した振り返りを通して，活動内容の確認や新たな活動内容の決定を行わせたり，自分の食生活の在り方について考えさせたりする。</li> </ul>

(2) 児童の変容について

ア 道徳において

葛藤<sup>かつとう</sup>場面でそれぞれの児童の考えを互いに伝え合わせるために，ペアでのかかわりを設定した。そのことで，様々な考えに触れさせることができた。この活動の結果，友達の考えを聞こうとする意欲の高まりを見取ることができた。また，話し合い後に自分の生活を振り返らせることで，今後の生活に生かしていこうとする記述が増え，児童の道徳的価値に対する考えを深めさせることができた。

イ 特別活動において

ワークショップや活動の相互評価というかかわりをもたせたことにより，より一層友達や学級を意識させることができ，学級の一員としての自覚を深めさせることができた。また，友達からの評価を生かした振り返りでは，問題点に気付かせるだけでなく，活動の改善を目指した新たな目標をもたせることができ，さらに工夫のある活動にしようという意欲を高めることができた。

ウ 総合的な学習の時間（食育）において

活動の中で食に携わる人とかかわる必然性をもたせたことで，児童が積極的に婦人会やJA職員，栄養教諭などとかかわるようになり，食への意識の高まりにつながった。また，話し合いやポートフォリオを活用した振り返りによって，活動内容を改善しようとするだけでなく，自分の食生活の在り方についても考えさせることができた。

4 今後の課題

- (1) 児童が自発的に他者とかかわろうとするような学習展開の工夫
- (2) 振り返って学んだことを実生活へ生かそうとする意識の継続や実践化に向けての手立ての工夫

《引用文献》

- 1) 佐賀県教育委員会 『佐賀県教育の基本方針』 平成19年 p.4